

# Aging in Community ケアタウン構想

## 東日本大震災復興まちづくり提言

平成23年4月



東京大学 高齢社会総合研究機構  
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo



THE UNIVERSITY OF TOKYO

# 0-1. 復興の理念

## -ケアタウン構想-

- 3月11日に発生した大震災にてお亡くなりになられた方々に対して深く哀悼の意を捧げるとともに、被災された方々には謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早い回復と復興をお祈り申し上げます。
- 東京大学高齢社会総合研究機構は、超高齢社会の広範で複雑な課題を解決するために、医学、看護学、理学、工学、法学、経済学、社会学、心理学、倫理学、教育学など、各領域の専門家が学問領域を超えて結集した組織です。当機構は、このような組織の特性をいかし、被災地における支援及び復興に対して、あらゆる英知を結集して被災者の皆様のお役に立ちたいと考えています。
- 特に震災復興においては、日本の将来を見据えつつ、地元住民の生活(コミュニティ)を最優先することが重要なことです。多くの被災地は高齢化率が全国平均を超えており、一部では既に高齢化率が30%を超えています。復興に際して重要なことは、経済面での復興はもとより、高齢者が孤立することなく、安心してコミュニティ内での役割をもち暮らし続ける試みを実現することです。このことが、すべての人が将来に向けて安心して過ごせる超高齢社会のコミュニティづくりの第一歩であります。このため、当機構ではケアタウン構想を提案し、この構想を土台にした上で、被災地の活力ある再建についての提言を行います。

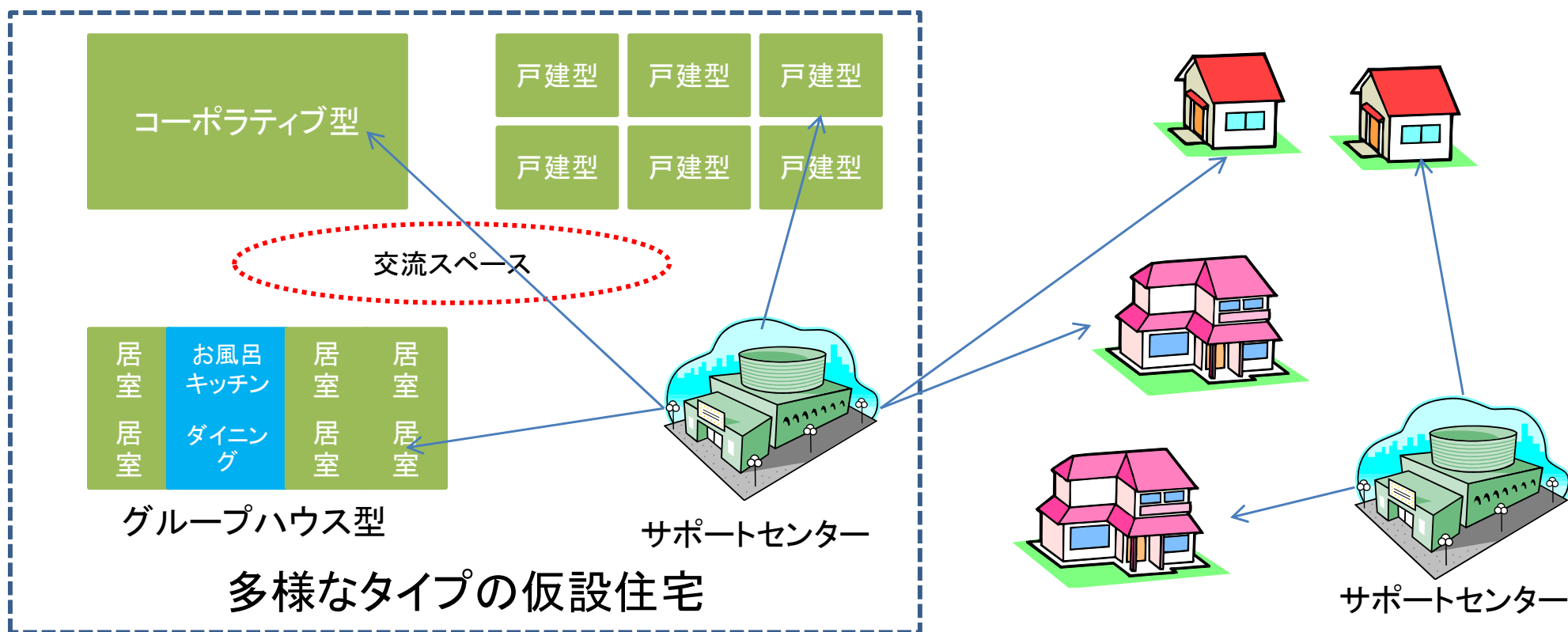
## 0-2.復興への道筋

### -環境移行の支援とコミュニティ復興の連続性-

- 避難期、仮設期、復興期の全過程を通じた環境移行の支援とコミュニティ復興の連続性の確保が必要です。
  - (1)環境移行の支援・・・あくまでも従来からのコミュニティが損なわれることなく、被災者が自分らしく生活し続ける環境を確保できるような支援
  - (2)避難所から復興コミュニティに向けての連続性・・・避難所から復興後の生活に至るまで「住まい」「生活」「かかわる人」が途切れることなく引き継がれることが重要です。

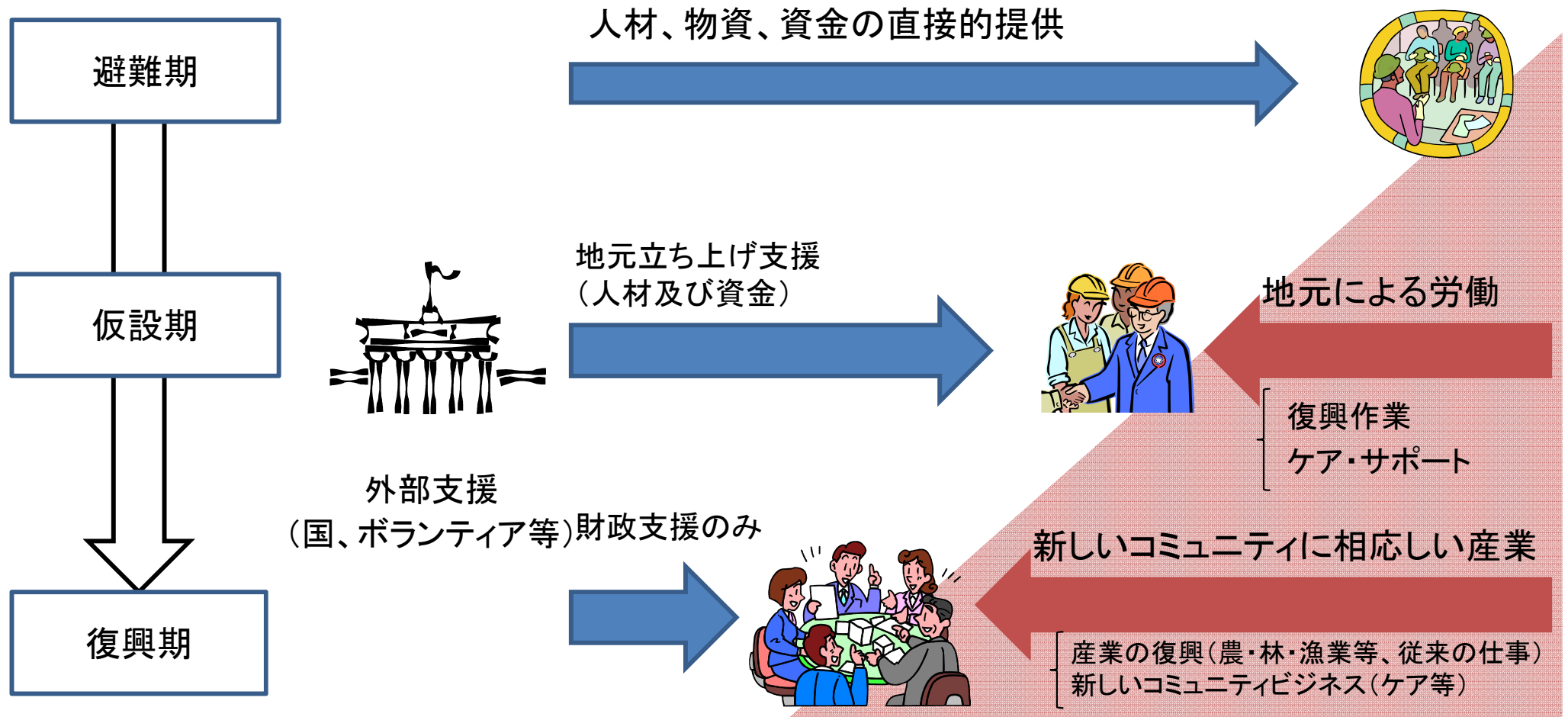
# 0-2.参考:「住まい」の連続性

住まいの連続性を担保する「多様な仮設住宅」と「サポートセンター」



- ・コミュニティが崩れることなく避難所から仮設住宅に移れること。
- ・まちの核にはサポートセンターがあり、高齢者を含む全ての人がその人らしく過ごすためのケアシステムが展開されていること。

# 0-2.参考:「生活」及び「かかわる人」の連続性



- ・「生活の連続性」・・・サポートセンターは地元の人々を雇用し、生活を立て直す最初の立ち上がり。これらは産業復興とともに地元の就労の場へと移行される。地元行政及び地元企業が上記のような復興段階にあわせた就労を展開できるよう、財政支援が重要となる。
- ・「かかわる人の連続性」・・・地元が関わり続けられるように、外部支援を徐々に移行する。

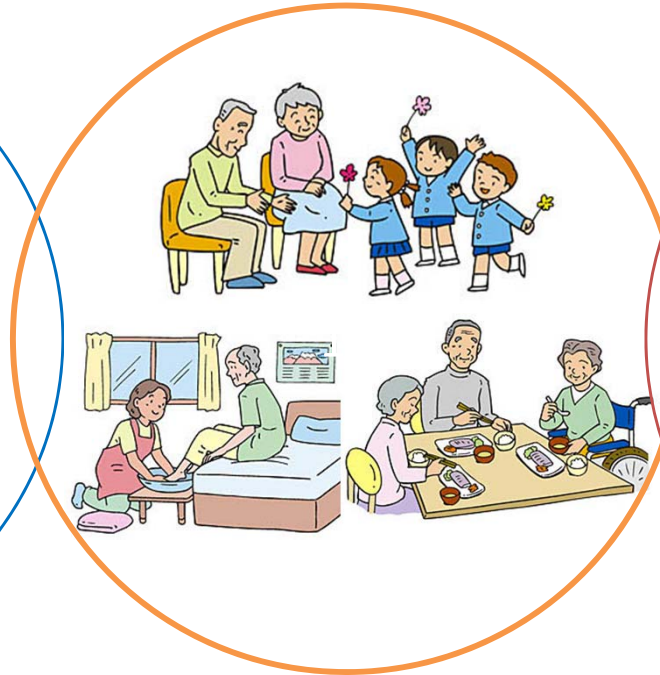


# 1.復興にあたって

-Aging in Community のためのケアタウン構想-



エコタウン  
Ecology



ケアタウン  
Equity

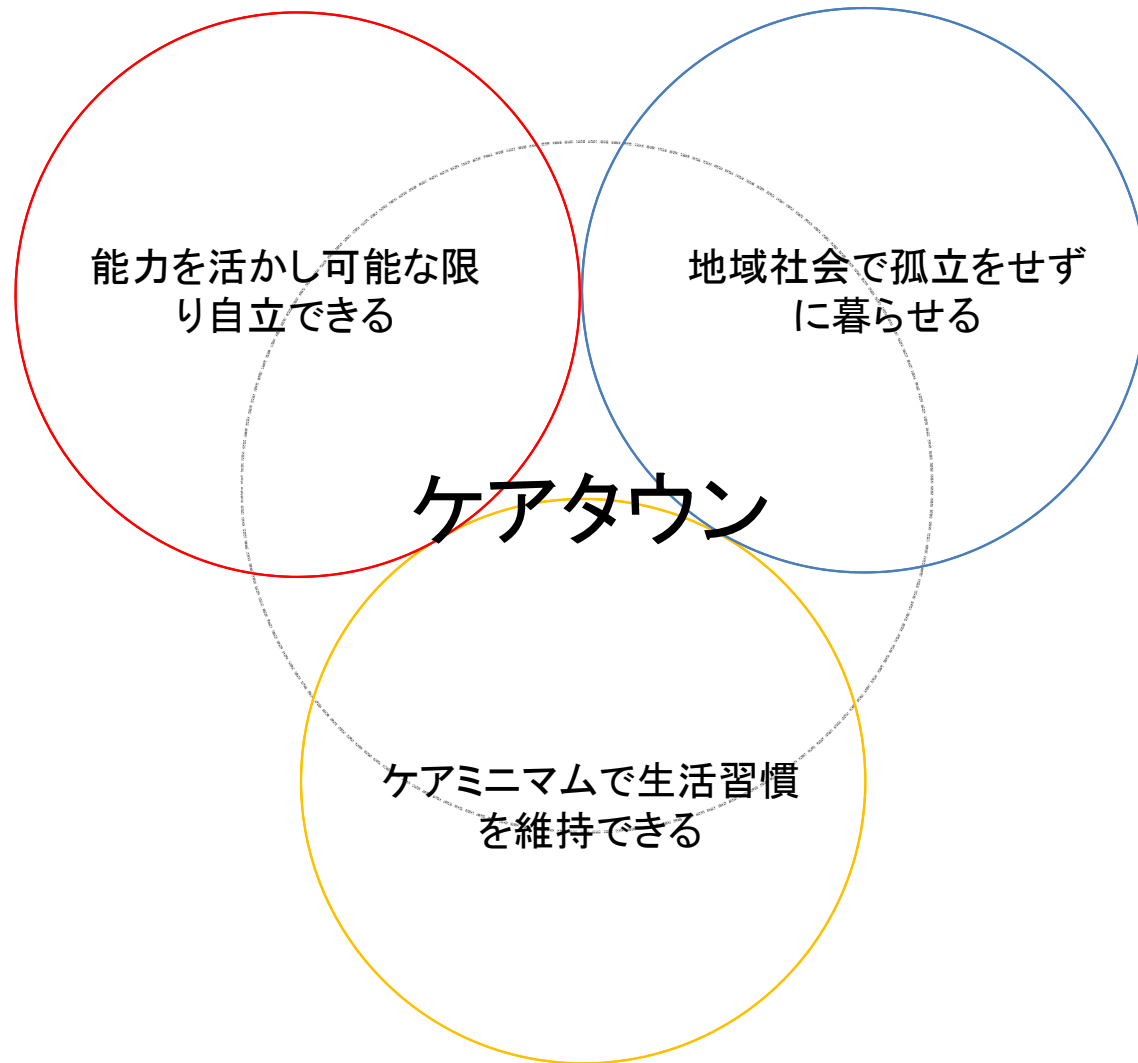


スローライフタウン  
Economy

故郷を取り戻し、自分らしく安心して暮らし続けられる、  
ケアタウンをみんなで作ろう。

# 2. ケアタウンとは？

Aging in Community が可能となる地域社会



能力を活かし可能な限り自立できる  
高齢者パワーが支えるまち

- 介護ヘルパーや子育て支援、配食サービスやふれあい喫茶等、いくつになっても地域を支えるコミュニティビジネスにとりくめます。
- 趣味の活動、ボランティア活動、いくつになっても自己実現ができます。
- だから若い人が安心して働けます。

地域社会で孤立をせずに暮らせるまち

- 人とのつながりが維持できる交流の場や機会をもつことができます。
- 住宅に閉じこもらないように、まちへ出かけたくなる工夫があります。

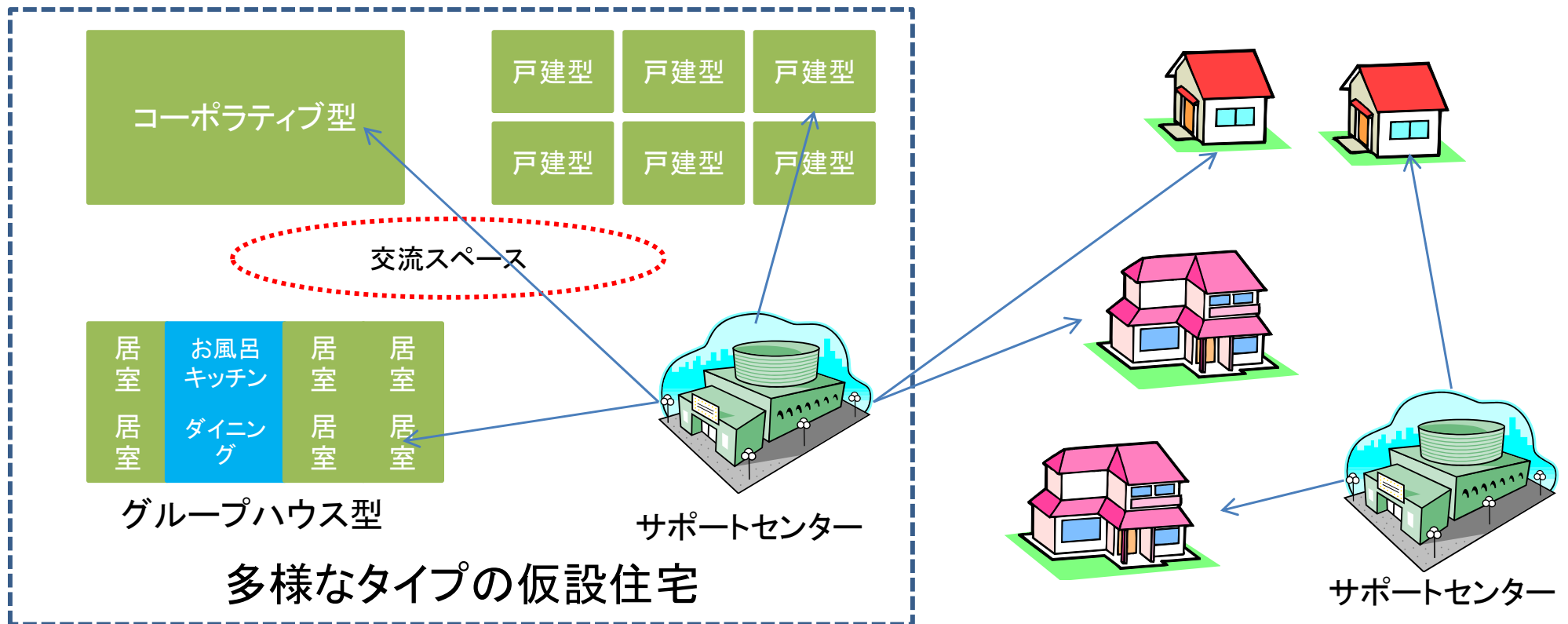
たとえ弱っても、元気な頃の生活習慣を  
ケアミニマムで維持できるまち

- 睡眠、食事、保清、排泄、離床・移動、更衣。生活のリズムを維持できます。
- 在宅医療、在宅看護、在宅介護により24時間365日の支えがあります。
- コミュニティやインフォーマルサービスによる「見守り」があります。

# 3-1. 住まいとサポートの連携

## ケアタウン実現のアイデア -その1-

住まいの連続性を担保する多様な仮設住宅とサポートセンター



- 住まいとケアの原則的キーワード(案)
  - － サポート(ケア)付きの住まい
  - － 高齢者の寝たきり予防、介護予防
  - － コミュニケーションの取れる共同空間



# 3-1. 仮設期における住まいとサポートの連携 ケアタウン実現のアイデア -その1-

## サポート付きの住まい

- 長屋型やグループハウス型などの高齢者向け仮設住宅を整備する
  - 例: 地域型応急仮設住宅(長岡こぶし園)
  - 例: 三反田仮設住宅(兵庫県尼崎市)
- 復興住宅として高齢者向け住宅をつくる
  - 多様な高齢者向け住宅(生活習慣を維持できる空間機能、バリアフリー、介護のしやすい住宅)
  - 例: ゆいま〜る那須(NPOコミュニティネット)
  - 例: 隠居長屋ろんち(社会福祉法人山稜会)

## 交流スペース

- コミュニケーションの生れる交流スペースの整備
  - 飲食店やオープンダイニング
  - 気軽に買い物に行けるお店
  - 人があつまるパブリックスペース

## 移動

- 車がなくても暮らせるまち
  - バリアフリーのゆきとどいた散歩しやすいまち
  - ベンチやトイレなど休憩場所の整備
  - 公共交通機関の充実

## ケアミニマム

- 生理的欲求を満たすための最低限必要なケアの提供
  - 介護支援専門員によるサービスの質の確保
  - 睡眠、食事、保清、排泄、離床・移動、更衣を、毎日継続し生活のリズムを維持する。
  - 介護保険とインフォーマルサービスの連携により、高齢者の生活リズムを、介護認定以前からシームレスに支える
  - 参考 岐阜県大垣市新生会

## ケアの拠点機能

- 24時間365日のケアを支える拠点の整備
  - 中学校区内での高齢者向け住宅のユニット化
  - ケアの拠点としての小規模多機能型介護を整備(デイサービス、訪問介護、ショートステイ?)
  - 競争と選択によるサービスの質と効率化の両立
  - 参考 新潟県長岡市こぶし園

## 訪問医療の提供

- 地元医療関係者による訪問医療チーム結成
  - 開業医のグループ化と拠点診療所との連携
  - 2次病院との連携とバックアップ病床の確保
  - 歯科医師、薬剤師、看護師。ケアマネージャー等との多職種連携

サポートセンターの最終的な形

# 4. ケアタウンのキーワード集

以上の理念と道筋に沿った、ケアタウンのキーワード及び具体的なアイデアを現在募集中です。

高齢者の欲求	生理的健康	安心安全	人との連帯	社会的役割	自己実現
避難期					
仮設期					
復興期					

## 5. 復興のための総合的な調査について

- (調査公害を防ぐ) 分野横断型の調査方法

# 構想策定メンバー

- 高齢社会総合研究機構
- 住まいとケアWG
  - 大方潤一郎、小泉秀樹、伊藤夏樹、似内遼一(都市工学科)
  - 西出和彦、大月敏雄、岡本和彦、富安亮輔、西野亜希子、佃悠(建築学科)
- その他WG
- 問い合わせ先
  - 東京大学高齢社会総合研究機構 (担当:後藤、廣瀬)
  - 〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部8号館701
  - TEL03-5841-1661 Fax 03-5841-1662
  - Email:goto@iog.u-tokyo.ac.jp